

27面マルチスクリーンシステムと全177拠点をつなぐテレビ会議システムを融合し、一刻を争う非常事態発生時にも、スムーズに意思の疎通が行える体制を構築。



▲一度に数多くの情報を見通すことができる、55V型液晶ディスプレイ×27台で構築されたマルチスクリーンシステム。

静岡県を中心として、国内外に店舗を広げられている静岡銀行様では、創立70周年記念事業の一環として、新本部棟「しずぎん本部タワー」を建設。それに合わせて、「非常事態対策室」をはじめ「役員会議室」「スタジオ」における映像表示装置として、当社製プロフェッショナルディスプレイおよびプロジェクターを採用いただきました。

導入の経緯

●大規模災害への対策を強化するため 新本部棟に「非常事態対策室」を設置。

静岡銀行様は、本拠地・静岡県が東海地震での防災対策強化地域に指定されていることもあり、「災害対策は経営の最重要課題」という考えのもと、日頃から強い危機感を持って災害対策に取り組まれています。

建てかえ前の旧本館は、当時の最先端技術を駆使した免震構造を採用していましたが、築後約50年を経過して設備の老朽化が進んでいることから、創立70周年を機に「大規模災害への対応の強化」と「お客様サポートのさらなる強化」を目指して、新本部棟建設を計画。2011年3月、東北地方太平洋沖地震の発生により、改めて災害対策の重要性を再認識され、被災された金融機関にヒヤリングなどを行うことで、一層の体制強化を図られました。

その結果、各拠点の被災状況の把握や行員の安否確認、本部から各拠点への指示伝達などには、遠隔地ともフェイス・トゥ・フェイスでやりとりができる「テレビ会議システム」が有効だということを感じられ、導入を決定。地震など自然災害だけでなく、システム障害や事故、マーケットリスクなど、あらゆる事態にも対応できる施設として「非常事態対策室」を設置されることとなりました。

●充実した映像表示装置の構成で 容易なコミュニケーションを実現。

非常事態対策室では●全177拠点をつないだテレビ会議映像 ●各店舗に設置している約5,400台の防犯カメラ映像 ●テレビニュースや緊急地震速報 ●ネットワークやATMの稼働状況など、各種情報の膨大な映像を大画面で表示して、情報の共有を容易にするとともに、まさに状況と情報の見える化を実現することとなりました。

そこで、

- 多画面 … 多種多様な情報を一挙に同時表示
- 大画面 … 重要な情報は見やすく拡大表示
- 高精細 … 細かな文字情報もシャープな表示で高い可読性
- 広視野角 … 端の座席からでも鮮明で視認性に優れた映像

という運用を可能とするため、当社TH-55LFV5Jで構築したマルチスクリーンシステムをご提案。非常事態の発生時に必要となる情報量などを勘案し、横3台×縦3台のマルチスクリーンシステムを3基、導入いただきました。

さらに、きめ細かく効率的な機器メンテナンスやサポート体制も評価いただき、これとは別に棟内の役員会議室×5室およびスタジオ設備においても当社製品を採用いただきました。

■横3台×縦3台のマルチスクリーンシステム×3基 (TH-55LFV5J:27台構成) の表示例 (非常事態対策室に導入:災害対策時の例)

それぞれのマルチスクリーンシステムごとに表示する情報を決めて運用することで、緊急時に必要となる情報を確認しやすい。



左側の9台には各店舗に設置された約5,400台の防犯カメラの映像を任意に表示可能。基本の映像表示位置を横方向:左から静岡県西部/中部/東部、縦方向:上からATMコーナー/店舗内ロビー/店舗駐車場と分けることで、どこで異常が発生しているのかを瞬時に把握できるように構成されています。



中央部はテレビ会議の映像を表示。ディスプレイ1台を20コマに分割することで、合計180コマを表示。静岡銀行様の全拠点とフェイス・トゥ・フェイスで会議が行えます。また拠点からの情報発信時には、発言者映像のみを9面マルチに拡大表示し、スムーズな会議進行を実現します。



右側の9台には各種情報を表示。テレビ放送や緊急地震速報、インターネット、パソコン画面などに加えて、静岡銀行様の行内ネットワークやATMの稼働状況などが表示されます。また「情報収集エリア(左ページ下段参照)」に設置したマルチタッチスクリーンディスプレイの映像をここに表示することもできます。

「非常事態対策室」での使用例

●非常事態発生時に求められる、スピーディで正確な状況把握と対応をサポート。

静岡銀行様では、非常事態対策室を「情報収集エリア」「意思決定エリア」に区分して運用しています。

●情報収集エリア

「情報収集エリア」では、各店舗の状況などを一元的に収集。内容を精査・検討し、必要な情報や対策案を「意思決定エリア」に送ります。このエリアには、当社製マルチタッチスクリーン液晶ディスプレイ TH-65LFB70Jが設置され、表示した映像に書き込みを行いながら討議を進めることができます。また、プロジェクターPT-DZ680も設置されているので、書き込みも含めた映像をリアルタイムで拡大表示可能。情報収集から対策立案までをスムーズに進めることができるシステム環境を構築しています。

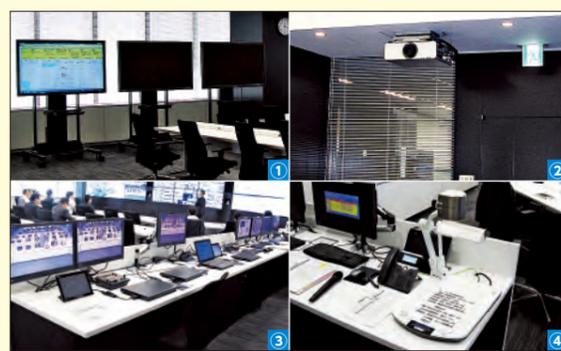
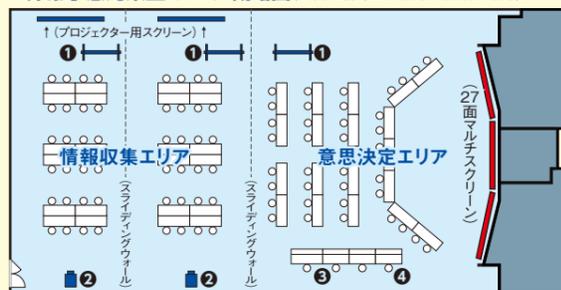
●意思決定エリア

さまざまな情報や対策案などをもとに、最終決定が成される「意思決定エリア」。

ここには縦3面×横3面のマルチスクリーンシステムが3基設置されており、多彩な情報を一度に見通すことができます。それぞれのマルチスクリーンシステムで、表示する内容をゾーニングすることで、必要な情報をすばやく見つけることができます(上写真参照)。また、災害対策や市場リスクなど、発生事態のタイプ別に表示する映像をプリセットしており、簡単なタッチパネル操作でシチュエーションに応じて必要な情報を表示できます。

通常は、非常事態対策室をスライディングウォールで区切り、会議室として活用。システムを扱う機会をできるだけ多く作り出し、操作に慣れることで、緊急時の正確なオペレーションにつなげています。

■非常事態対策室 フロア概略図 (図内の番号は下記写真説明と連動)



①65V型マルチタッチスクリーンディスプレイを移動式スタンドにセット。必要に応じて自由に移動できる。②「情報収集エリア」にはプロジェクターを導入。マルチタッチスクリーンディスプレイに書き込まれた内容もリアルタイムに拡大表示可能。③機器操作卓。機器はタッチパネル画面に触れながら操作するだけの、簡単なインターフェイスを構築。④FAXなど紙情報も画面に表示する必要があるため、書画カメラを導入。

「役員会議室」での使用例

●リアからの投影で大画面プロジェクターを設置し、落ち着いたディジションメイクできる環境を構築。

取締役や執行役員など経営陣のスムーズな議論をサポートするため、新本部棟に設けられた5室の役員会議室には、当社製DLP®方式プロジェクターPT-DZ10K、マルチタッチスクリーン液晶ディスプレイを採用いただきました。

メインに使用されている第1会議室には、主映像表示装置としてリア投影方式で150インチのスクリーンを導入。プロジェクター本体をバックヤードに設置するため、スッキリしたインテリアと静かな室内環境を実現。落ち着いたスマートな会議室を構築しています。

プロジェクターにはテレビ会議システムを接続。臨場感に満ちた大画面映像で、遠隔地とつながり、重要な指示や命令を確実に伝達できます。

また「非常事態対策室」の天井に設置された俯瞰カメラの映像を確認できるため、会議中でも対策室の状況を把握できます。

●スムーズでペーパーレスのディスカッションを実現するタッチスクリーンディスプレイ。

第1会議室には、画面に自由に書き込めるマルチタッチスクリーン液晶ディスプレイTH-65LFB70Jも設置。ホワイトボードとして活用するほかにも、画面に表示した各種資料や映像に書き込みを加えることもできます。

また、書き込んだ内容はデータとして保存できるため、静岡銀行様が推進する会議のペーパーレス化にも大きく貢献しています。



▲150インチの大画面スクリーンを設置した第1会議室。リア投影で大きなプロジェクター本体はバックヤードに収まっている。ファンの風切り音などのノイズも室内に漏れてこない。



▲スクリーンの裏側にDLP®方式プロジェクター PT-DZ10Kを天井吊り設置。



←操作用タブレット端末

◀バックヤードに設置されたAV機器収容架。システム操作用にタブレット端末を導入。画面に触れるだけで機器を操作できる。ワイヤレス接続のため、会議室側に持ち運んで操作可能。

「スタジオ」での使用例

●フルハイビジョン対応「バーチャルスタジオ」でもプロフェッショナルディスプレイが活躍。

新本部棟には、静岡銀行様行員向けビデオニュースや広報用映像を制作するために、フルハイビジョンに対応したビデオスタジオを新設。収録用機材には、当社放送・業務用映像システムP2HDシリーズとプロフェッショナルディスプレイを採用いただきました。スタジオはリアルタイムにクロマキー合成を行う「バーチャルスタジオ」になっており、収録した映像に背景画像を合成して完成になります。収録スタジオには、映像確認用モニターとしてTH-42LF60Jを設置。合成処理された映像を確認しながらビデオ収録ができます。編集室にもTH-42LF6Jを導入。ビデオ編集ソフトで使用する数多くのウィンドウやプレビュー画面を1台のディスプレイに表示します。



▲収録スタジオ内に、スタジオモニターとしてフルハイビジョン液晶ディスプレイを導入。プロンプターとセットして、コンパクトに設置している。



◀スタジオ編集室には、さまざまな編集機材とともにフルハイビジョン液晶ディスプレイを設置。編集ソフトの細かな文字などもシャープに表示。

導入を終えて

今回、取材にご協力いただきました「新本部棟建築プロジェクト」ご担当者様



静岡銀行 経営管理部
総務管財担当部長
新本部棟建築プロジェクトチーム
統括責任者 中村 泰昌 様

管財グループ グループ長
新本部棟建築プロジェクトチーム
責任者 大石 勝也 様

●テレビ会議とマルチスクリーンディスプレイの統合で、多拠点フェイス・トゥ・フェイスでつなげるシステムに満足。

新本部棟完成後、非常事態対策室には、県・市など自治体や、他の企業からの視察が相次いでおり、非常に注目される施設となっています。導入いただいた27台の55V型液晶ディスプレイによるマルチスクリーンシステムは、12.3V型相当(ディスプレイ1台で20分割画面表示時)から165V型相当(3台×3台マルチスクリーン表示時)までの幅広い表示方法に対応。加えて、細かな文字もクリアに表示する高精細映像と広視野角で、さまざまな情報の可読性に優れている点なども含めて、高い評価をいただきました。

新本部棟建築プロジェクトチーム統括責任者 中村部長様からは「もし、今回のシステム導入がなければ、全拠点に何百回と電話やFAXを入れて指示を与えることになり、スムーズな意思伝達が行えません。一刻を争う非常事態だからこそ、映像で全拠点とつながり、情報を交換・共有して事態に対処することが必要です。こうしたことから、今回、非常に満足いくシステムが導入できました。」と、ご感想をいただきました。

■静岡銀行様のプロフィール

●所在地 静岡市清水区草薙北2番1号(しずぎん本部タワー) ●URL <http://www.shizuokabank.co.jp/>



地域とともに歩み、発展し、「世界一の地方銀行」を目指す。

静岡を中心に、東京、神奈川、愛知、大阪の5都府県、さらにはアジア、北米、ヨーロッパにも店舗を広げる静岡銀行様は、「地銀の雄」として全国的にも名を知られており、「日本三大地銀」の一つとしても名をあげられています。

今回の新本部棟建設にあたっては、個人のデスクを撤廃し、館内のどこでも業務を行える「フリーアドレス」を導入。また、ペーパーレス化を強く推進するなど、先進的な試みを多数導入されています。